

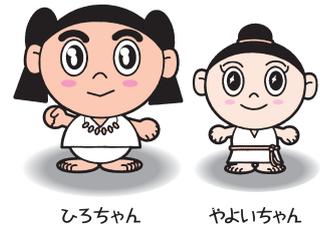
ひろしまの遺跡

第117号

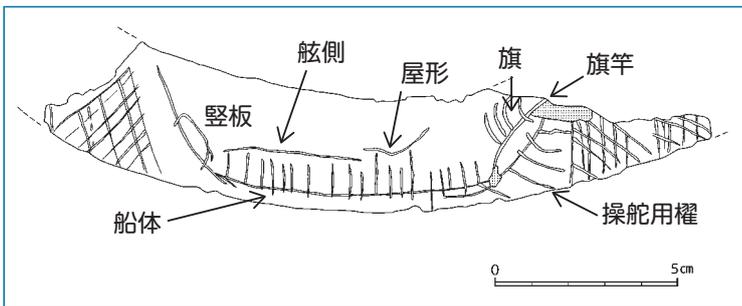


伊予で描かれた御領の船

— 御領遺跡（福山市神辺町）の船絵画土器 —



御領遺跡の船絵画土器 (⇒突帯, ←船絵画)



船絵画の詳細図



平成25 (2013) 年度の御領遺跡第7次調査で出土した弥生土器の壺の口に描かれた、日本最古の屋形船は、平成28 (2016) 年度の整理作業によって、壺の頸部に粘土を貼り付けた突帯のついた壺であることが判明し、その特徴から、伊予地方 (愛媛県) で製作され備後地方に運ばれたものであることが判明しました。この土器の年代は、弥生時代後期後半 (2~3世紀) で、魏志倭人伝の邪馬台国の時代にあたります。詳細は今年度 (平成29年3月) 刊行の報告書 (本誌8頁参照) に掲載しています。 (伊藤 実)

発掘調査速報

1 天地遺跡 (福山市新市町)

調査期間 平成28年8月29日
～平成28年10月21日

天地遺跡は新市町常・金丸地区に所在し、3ヶ年に渡り発掘調査を行いました。一昨年度の調査で、丘陵麓に古代～中世の集落跡等を確認し、昨年度の調査では丘陵尾根頂部で弥生時代の竪穴住居跡、貯蔵穴や中世の集団墓、集石を確認しました。

本年度の調査は、丘陵尾根へと続く平坦部及び北側、東西斜面を調査し、検出した遺構は性格不明遺構3基、土坑5基です。昨年度調査区から流出した弥生土器等が南東斜面を中心に出土しました。また、調査区南端斜面では段状遺構を検出し、平坦面で円形土坑を確認しましたが、どの遺構も遺構に伴う遺物が出土していないため、造営時期は不明です。

本年度の調査では、昨年度の調査に続く遺構の存在が予想されましたが、確認することができませんでした。このことから尾根頂部の平坦部が弥生時代の集落域、中世の集団墓の墓域を示し、本年度調査区の平坦部は集落・墓域における空閑地や道として利用された可能性があります。(菅原尚隆)

2 夕倉遺跡 (福山市津之郷町)

調査期間 平成28年11月20日
～平成29年2月3日

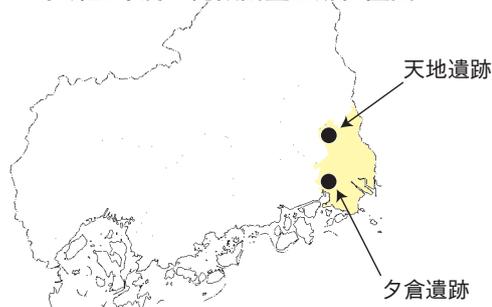
遺跡は、福山市津之郷町字高垣に所在し、芦田川及び芦田川と合流する瀬戸川により形成された沖積地にあります。標高22.2mの丘陵の北側緩斜面との変換点にあたる平地に立地し、調査前は標高約7～8mの田畑でした。

西側調査区では溝状遺構1条を東側調査区では、段状遺構1基、土坑3基、溝状遺構7条、柱穴等確認しました。土坑は円形の石組をしたものもあり、規模・形態等から井戸と想定できます。遺物は、遺構内や埋土などからさまざまな土器(弥生土器・土師器・須恵器・土師質土器など)が出土しています。

今回の調査では、土師質土器など中世の土器が多く出土しており、草戸千軒町遺跡(鎌倉～室町時代)と同じ時代の集落跡と考えられます。

調査地点は東側に丘陵が迫っていることや建物跡などが存在しないところから、中世村落の東側の縁辺部付近にあたるものと思われます。(金石明久)

平成28年度 発掘調査遺跡位置図



空中写真(北東から)



段状遺構(北から)



空中写真(南西から)



石組みの井戸

只今、 整理作業中 です。

奥山製鉄遺跡（三次市君田町）

平成28年8月22日～11月11日に調査を行いました。

調査では製鉄炉本体の遺構は確認できませんでしたが、出土した炉壁、鉄滓の整理により、江戸時代以前の製鉄遺跡である可能性が高まってきました。

木呂孔（送風管を差し込む孔）が残る炉壁が多数出土しており、孔径や角度、孔の間隔などを現在検討しています。また、炉壁にはスサ（つなぎのための藁）が入っていますが、スサ入りの炉壁は江戸時代になると見られなくなるといわれています。

また、製鉄の炉壁・鉄滓だけではなく、精錬鍛冶に使われた鞆の羽口や、精錬鍛冶によって流れ出した椀形滓が出土しています。中世以前の製鉄遺跡では製鉄炉のすぐ近くで精錬鍛冶を行うことがありましたが、江戸時代には製鉄と精錬鍛冶は別の場所で行われるようになるとされています。

以上のことから、中世後期の製鉄遺跡であると考えて整理作業を進めています。科学的分析の結果も踏まえて、来年度に報告書を刊行する予定です。

（平元克弥）

亀居城関連遺跡（大竹市小方）

遺跡は、亀居城跡の西にある西国街道の両側に立地しています。発掘調査の結果、幕長戦争による火災の痕跡が確認され、亀居城の櫓台や石垣と推定される遺構も見つかりました。

整理作業では、報告書作成に向けて遺構図面の作成や出土遺物の実測等を行っており、今までに次のようなことがわかりました。

多量に出土した陶磁器は、17・18世紀では肥前系の陶磁器が主なものですが、19世紀以降は肥前系の陶磁器を中心として、瀬戸・美濃、信楽、石見、砥部など多様な陶磁器へと変遷することを確認しました。

遺物の中に興味深いものとして、当時の貨幣である丁銀を模した土製品がありました。七福神の大黒や恵比寿が描かれていることから、縁起物であったと思われます。お金や幸運が欲しいのは、現代の人だけではないようです。

（渡邊昭人）



遺跡見学会（平成28年11月）の様子



製鉄炉 炉壁底近くにある木呂孔



炉壁と鞆の羽口



椀形滓



丁銀を模した土製品



同 拓本

平成28年度 ひろしまの遺跡を語る

幕末動乱期の西国街道

1月14日（土）に県民文化センター多目的ホールにおいて、「平成28年度ひろしまの遺跡を語る」を開催しました。今回は「幕末動乱期の西国街道」と題して、幕府と長州軍の戦いの舞台となった大竹・廿日市市付近にスポットを当てました。近年、幕長戦争の痕跡がみつかった遺跡の発掘調査報告や、幕末史が専門の広島大学名誉教授・三宅紹宣さんによる幕長戦争の経緯、近世史が専門の広島大学准教授・石田雅春さんによる幕末期の大竹の民衆の暮らしぶりなどの講演を行いました。

当日は朝から雪が降り、寒い一日だったにも関わらず200名を超える参加者があり、講演者の話に熱心に耳を傾けておられました。合わせて行った展示もとても好評で、多くの方が足を止めて見学してくださいました。
(順田千織)



シンポジウムの様子



出土品の展示

平和青空大通り 青空ギャラリー 2017

1月22日（日）に西区役所前の緑地帯で行われた平和大通り青空ギャラリー 2017に参加しました。青空ギャラリーは西区役所主催の全国男子駅伝協賛イベントです。当室のブースでは和同開珎の鋳造体験を行いました。鍋で溶かしたスズを鋳型に流し込むとても簡単な作業のため、小さい子どもから年配の方まで、年齢を問わず楽しんでいただけます。できたお金は持って帰ることができるので、みなさんととても喜んでくださいました。

(順田千織)



上手にできたかな？



バリを取って完成です

一発掘から推理するII-

概要

今年度の考古学講座は、昨年度に続いて「発掘から推理する」のテーマで、広島県内および近隣の県で実際に調査に携わった方たちに講演をしてもらっています。講座では、調査によってわかった新発見や、長年の調査の蓄積からわかってきたことなど、最新の情報をお話ししていただきました。どの回も会場いっぱいの参加者があり、熱心に話を聞いていました。(順田千織)

第1回 (平成28年12月25日)

鳥取県立むきばんだ史跡公園の長尾かおりさんが、妻木晩田遺跡で初めて石棺が採用された弥生時代の墳丘墓である仙谷8号墓について講演を行いました。実際に墓を掘った本人の話に、皆聞き入っていました。



大勢の方に参加していただきました

第2回 (1月9日)

(公財)愛媛県埋蔵文化財センターの松村さを里さんが、弥生時代の大集落である新谷森ノ前遺跡から出土した、龍や船の絵が描かれた土器について講演を行いました。当日は福山市の御領遺跡で出土した船の絵画土器もあわせて展示しました。



船の絵。角度を変えて熟覧

第3回 (2月11日)

府中市教育委員会の道田賢志さんが、平成28年に国指定史跡に指定された備後国府跡について講演を行いました。30年以上に渡る調査成果の蓄積と、国史跡になるまでの努力、これからの展望について熱く話しておられました。



講演後にも質問が多数

第4回 (2月25日)

岩国市教育委員会の藤田慎一さんが、中津居館跡について講演を行いました。どうして三角州の中に土塁と堀に囲まれた大規模な館がつけられたのか、そこから見つかった多量の銭は何のためなのか、などの謎をテーマにお話しされました。



これから講演が始まります

知られざるひろしまの遺跡探訪

広島発！ローカル(乗合)列車・バスで行く遺跡探訪ツアー

後編

第3回 (平成28年10月22日)

第3回は呉に眠る二つのコンクリート船を見学に行きました。あいにくの雨天でしたが、呉線に乗って広島駅を出発しました。

一つは安浦町三津口にある第一・第二武智丸です。武智丸は全部で4隻造られましたが、そのうちの2隻が船尾を接して並んで置かれています。もう一つは音戸の坪井漁港にあり、これも防波堤として利用されています。武智丸は自力操行できる船ですが、音戸のものは貨物船で曳航する重油タンカーで、満載時の船体は海中に沈み船首だけが顔をだしています。

コンクリート船は日本の船舶史とコンクリート技術史や、戦争を語る上でも大切な資料といえます。戦後防波堤等に転用されたコンクリート船のうち、今も原型を留めて内部が見学できるものは安浦の武智丸だけです。

しとしとと降る雨の中、戦争や、コンクリート船が今後どのように保存されていくかなどを皆で考えながら歩いた一日でした。(順田千織)



コンクリート船(武智丸)に乗船?



お疲れさまでした(音戸にて)



第4回 (平成28年11月19日)

第4回は広島からJRを乗り継ぎ、私鉄・井原鉄道に乗って福山市神辺の御領古墳群を見学に行きました。

御領古墳群は2014年に地元の方が発見し、その後その有志の方たちによって整備されています。現在までに200を超す古墳が確認されていますが、ほとんどが山の中にあり、まさに知られざる遺跡です

当日は発見・整備に携わる「御領の古代ロマンを蘇らせる会」の方たちに案内をお願いし、見つけたばかりの古墳を見て回りました。

口を開けた横穴式石室を見た時には、参加者全員が声をあげました。最後に登った「古墳の丘」では、顕わになったたくさんの石室と、眼下に広がる平野を一望でき、古墳時代の人たちもこの場所から自分たちの集落を見下ろしていたと思うと、本当にロマンです。参加者全員、古墳のある風景と地元の方たちの熱意に胸を打たれていました。

(順田千織)



説明に聞き入る参加者の皆さん

考古学 アラカルト 47

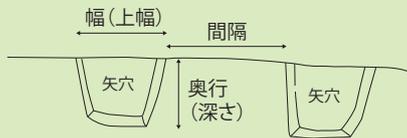
石垣の矢穴

広島城や福山城など近世城郭の石垣を観察すると、石材の縁辺に並ぶ歯型のような台形の浅い凹みの列を見ることがあります。これを「矢穴（やあな）」といいます。大きな石の塊から石材を割り取るために開けられた穴で、「矢」とは鉄製の楔で、矢穴にこの楔を差し込んで一斉にゲンノウを用いて石塊を割り裂きます。

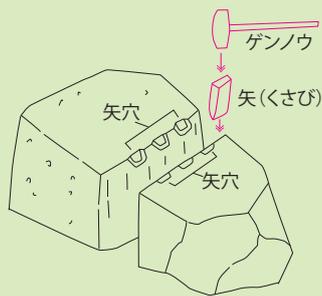
城郭に石垣が本格的に築かれるのは織豊期から江戸時代にかけての城郭からで、戦国時代までは石垣はごく部分的なものでしかありませんでした。自然石や簡単な加工を施しただけの石材を用いて低く小規模で不安定な石垣を築いています。安土城以降、城郭に多層

の構造物を載せる必要性から強固な地盤の築成が求められるようになり、より大きな石材を高く積み上げた規模の大きな高石垣が築かれるようになります。大きな石塊を求めて山奥や島嶼部に入り込み、大型の割石が大量に生産されていきました。

昨年度発掘調査を実施した大竹市の亀居城関連遺跡（第2次調査）のA・B-1・F区で石垣がみつかり、いずれも良く矢穴が残っています。これらの矢穴と山上にある江戸初期に築かれた亀居城跡の詰の丸（本丸南側）の石垣の矢穴の大きさを比べてみることにします。B-1・A区の石垣の矢穴の大きさは平均値で幅9.3~9.4cm、奥行6.2~6.5cm、矢穴の間隔8.9~10.1cm、詰の丸石垣は幅9.8cm、奥行7.0cm、間隔7.1cmと似通った数値を示しています。一方、F区の石垣の矢穴は幅12.4cm、奥行7.3cm、間隔5.8cmと一回り大きく、矢穴の間隔も狭くなっています。このことから、B-1区やA区の石垣は亀居城の石垣である可能性が高いとみられる一方で、F区の石垣には違いがあるようです。（梅本健治）



第1図 矢穴計測模式図



第2図 石材割裂状況模式図



亀居城跡の矢穴（上下とも）



香川県高松城跡の矢穴



岐阜県苗木城跡の矢穴

近世遺跡出土の陶磁器 -その生産と・流通・消費-

文化財調査研究の最新情報や技術を習得し、専門的な知識を深めることを目的に昨年度からスキルアップ研修を実施しています。今年度は東京大学準教授（埋蔵文化財調査室）堀内秀樹さんを招いて「近世遺跡出土の陶磁器」と題して講演していただきました。

堀内さんには遺跡から出土する陶磁器の産地とその特徴、生産と流通、分析の方法などをお話ししていただきました。また、肥前陶磁器を中心にして消費地での編年のメリット・デメリットや城下町で出土する遺物の器種構成は生活様式を示していることなど詳細な内容でした。

今回の研修には市町の文化財担当職員の17名の参加もあり、充実した研修となりました。
(順田千織)



お知らせ

平成28年度の発掘調査報告書を刊行しました。

ご希望の方は調査室へお問い合わせください。

	書名	市町名	概要	頒価
埋文報告 第76集	狐川1号遺跡・福原2号遺跡・福原3号遺跡	東広島市	狐川1号遺跡は古代・中世・近世の集落。古代は掘立柱建物が主体となる小規模な集落が営まれていた。円面硯や転用硯が出土しており官衙と関係する集落であった可能性が考えられる。 福原2号遺跡は近世を中心とする集落跡。遺構は、調査区のほぼ全域に広がる。活動のピークは18世紀前半。近世の農村を考える上で良好な資料を得た。 福原3号遺跡は弥生時代～近世の集落跡。福原2号遺跡とは小さな谷を挟んで対峙する。古墳時代（6世紀末から7世紀初頭頃）の溝から県内初例となる刀形木製品の出土。	1,400 (送料別)
埋文報告 第77集	国道313号道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(5) 御領遺跡 (第7次調査2013)	福山市	県内有数の弥生集落跡。土坑内からは多くの土器が出土し、弥生時代後期後半から古墳時代初頭の集落の変遷を追うことができる。準構造船を描いた伊予産とみられる壺や讃岐地域・吉備中枢域との交流が窺える土器が出土。	1,300 (送料別)
活動報告 第6集	平成27年度ひろしまの遺跡を語る鉄の古代史-ひろしまの鉄の歴史-記録集	—	角田徳幸さんの「製鉄技術」・安間拓巳さんの「鍛冶技術」・当調査室伊藤実さん「古代の鋸」の講演と発表者による座談会の全記録	500 (送料別)
—	年報13	—	平成27年度における当事業団の実施した事業概要のまとめ。	—

あとがき

いよいよ平成28年度も終わりに近づきました。今年の夏も暑い日々と雨が続き、寒い冬も乗り越え発掘調査も無事終了しました。

巻頭ページでもお伝えしたように、整理作業を進めていく中でも新たに発見することもあります。描画の繊細なタッチに驚きました。

また、開催した行事に多くの方に参加していただき有難うございました。今後も様々な形で情報を発信したいと思います。(S. Y)

(公財)広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室報 ひろしまの遺跡 第117号

発行日 平成29年3月24日
編集 (公財)広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室
〒733-0036 広島市西区観音新町4-8-9
TEL(082)295-5751 FAX(082)291-3951
ホームページ <http://www.harc.or.jp>
E-mail maibun@harc.or.jp
発行 (公財)広島県教育事業団
印刷 株式会社ニシキプリント